

積女 ASSAL

女性の時代と言われて久しい世の中ですが、積算業界でも多分に漏れず多くの女性積算士が活躍しています。昨年、本協会では積算協会所属女性グループである“積女ASSAL”を立ち上げ、早くも第1回～第3回まで交流会を開催し、多くの女性に参加していただきました。

建築業界では比較的少数である女性も結婚・出産・育児を経てそれまでのキャリアを諦めざるを得ない状態が長らく続いておりました。しかし時代とともに社会的整備が進み、キャリアに復帰できる環境が揃いつつあります。積女ASSALではそういった男性にはない女性特有の悩みや葛藤に対し、よき相談者・助言者となり建設業界で働く女性の交流やスキルアップの場を提供しています。

また、男性も少数ではありますが参加していただいております。ワーク・ライフ・バランスや女性の置かれる立場などを理解し、円滑な職場環境づくりに一役買ってくれば、男性が参加する意義は十分にあります。

このような流れの中で、本誌は今年の特集テーマを“女性”とし本協会をはじめとする他団体も含め、どのような女性がいかなる視点で活躍しているのかをさまざまな切り口でクローズアップし、今後の女性積算士のあり方や指標になるようさまざまな方に寄稿していただくことになり、第一弾として“積女ASSAL”を特集しました。今後の参考にしていただきたいと思います。

広報委員会 会誌編集部 宮川剛

1. 『積女ASSAL (セキジョ アッサル) 特集』委員長挨拶
..... 前田伸子 三井住友建設株式会社
2. 積女ASSAL 第1回茶話会について
..... 中島春奈 株式会社 中野積算
3. 積女ASSAL 第2回茶話会について
..... 東 聡子 株式会社 大林組
4. 積女ASSAL 第3回茶話会について
..... 江藤久美子 株式会社 NTTファシリティーズ総合研究所
5. 「積女ASSAL 茶話会」に出席しての感想
..... 片野真理恵 株式会社日本設計
6. 積女に囲まれて。
..... 武田泰士 株式会社日建企画
7. 「積女ASSAL」に出席して
..... 佐藤千尋 株式会社アーキ・ピーアンドシー
8. 「積女ASSAL 茶話会」に参加した動機とその感想
..... 田中政江 クリーク・クオレ株式会社
9. 「積女ASSAL 茶話会」に参加させていただいて
..... 岡本佐和子 株式会社エーシーエ設計

『積女 ASSAL (セキジョ アッサル) 特集』 委員長挨拶



三井住友建設株式会社
積女 ASSAL 委員長
前田伸子

「積女 ASSAL」の特集依頼を広報からご連絡いただいた時、大変嬉しい気持ちと同時に後悔の念があふれました。計画は、この後本号の中で各メンターの皆様ご紹介する、第1～3回茶話会と交流会を開催する予定でしたが、その中の交流会が未開催だったからです。

茶話会が大盛況で終わることができ、ほっとすると同時に少し息切れしてしまったようです。期待していただいた皆様にお詫びとともに、4月以降早期開催に向けて気持ちを新たに準備をしていきたいと思っておりますので、楽しみにお待ちしております。



第1回茶話会



第2回茶話会

《御礼と今後》

「積女 ASSAL」に一度遊びにきてみませんか？をキャッチフレーズに、テーマ別に茶話会を3回実施しました。

- 第1回 積算とはおよび数量積算方法
- 第2回 内訳書作成およびコストに関連
- 第3回 建築積算の周辺業務・技術の紹介

はじめての試みで、皆様にご参加いただけるか大変不安でしたが、1回だけではなく2回、全3回ご参加の方、東北からご参加して下さった方、発注者・設計事務所・積算事務所・学生・ゼネコンの方々、オブザーバー等でご参加いただいた方々で、毎回会場が熱気であふれていました。本当にありがとうございました。

次回以降、働く環境(目標：日本一休みの多い積算事務所を創る)をテーマにした説明、前回よりさらにスキルアップした各メンターの説明、交流会等を開催いたしますので、ぜひご参加ください。



第3回茶話会

《アンケートから》

問1. 参加者の内訳は？

参加者中、20%程度男性でした。

「積女 ASSAL」は男性の参加も大歓迎です。

問2. 参加のキッカケは？

上位から①会社の上司、②学校の講師、③パンフレット、④協会HP、⑤メルマガ。

①会社の上司、②学校の講師で過半数を超えていました。期待と理解の表れですね。

問3. 活動に参加できる時間帯は？

①土曜日66%、②平日の夜22%、③いずれでも可8%。

当分、活動は土曜日を中心に行いたいと思います。

問4. 自分の仕事の説明やアピールを「積女 ASSAL」でしていただけますか？

①しても良い17%、②したくない47%、③その他36%。①のしても良い方は、この後、講師の募集にぜひ参加してください。

②したくない、③その他の方々のコメントを見ますと、まだ経験が少ないので話をできる内容が少ないとの意見が多かったです。お話できるようになるまでお待ちします。この会に参加してたくさんの方の知識・経験を糧にしてください。

問5. 今後、期待するテーマ並びに活動内容は？

回答は、期待するテーマ・活動内容と、ご意見がありましたので、分けてまとめてみました(順序は同じジャンル毎にまとめました)。

●期待するテーマ・活動内容

- ①「積算」の経験談
- ②第1回の各項目をもう少し詳しく聞きたい
- ③近年、改修工事が増えているので、改修工事に関する講習
- ④設備積算(拾い方・設備概算・建築積算との関係)
- ⑤解体工事の積算
- ⑥耐震工事の積算
- ⑦コスト管理に関すること
- ⑧建物のコストを出す難しさと楽しさについて
- ⑨概算費の算出方法と精度UP
- ⑩積算業務の今後の課題(人材育成・BIMの活

用法)

- ⑪BIM関連を深く学びたい(事例も含めて)
- ⑫CMについてもっと詳しく聞きたい
- ⑬仕事と子育ての両立等、女性の活躍について
- ⑭メンター同士の対談
- ⑮現場見学会、現場での仕事
- ⑯積算を取り巻く市況
- ⑰女性目線で積算する目的・コスト関係
- ⑱積算に興味のある学生向けの活動、学生へのアピール
- ⑲積算士の具体的内容、建築積算士試験について
- ⑳積算学校で行っている内容を、具体的に知りたい

●ご意見

- ①撮影して、協会のHPで動画発信してほしい
- ②いろいろな立場での積算についてお話を聞くことができ、大変勉強になりました。
- ③積算で働く方達とお話する機会がないので交流する機会をつくってほしい。
- ④相談の場、勉強の場として利用並びに参加したい。
- ⑤来年も宜しく願いいたします。
- ⑥女性同士のネットワークづくりを通して、より良い見積書の作成、建設業界をつくっていただけると幸いです。
- ⑦女性として心がけていることや大変なこと等をどのように対応しているか？

いただきましたアンケートは今後の活動の参考にさせていただきます。今後共、ご協力をお願いいたします。



《講師募集》

茶話会のサブテーマでもある『あなたも講師を試してみませんか?』として募集します。

募集ジャンルは、アンケートの「今後、期待するテーマ」の中からの選択しました。

- ①設備積算
- ②改修積算

連絡先は、下記までお願いいたします。

日本建築積算協会 e-mail: hp@bsij.or.jp

《事例》

「昨今、建設業の女子を取り巻く環境に少しずつ変化のきざしが見えてきて、これまでは個人の頑張りに頼っていた部分が組織化され、女性特有の問題を話し合いサポートする会」にもしていきたいと設立時等で申し上げました。組織化されてきた事例として当社の一例を抜粋して紹介したいと思います。

1. 女性活躍推進部会の新設
2. 取り組み内容

- ・仕事と家庭の両立支援策の見直し
- ・女性のライフイベント(結婚、妊娠、出産、育児等)への継続支援
- ①勤務地変更支援制度
- ②ジョブリターン制度(復職)
- ③ベビーシッター利用支援制度
- ・女性リーダー候補者のためのキャリア研修
- ・女子部下をもつマネージャーのための研修
- ・女子意見交換会の開催

《最後に》

この会の設立の頃から、毎日午前5時55分から5分間だけ『名曲アルバム』を楽しみに聞いています。

1976年4月5日に開始され、ずっと続いているNHKのクラシック音楽番組で、最近の曲は、ピアノの詩人ショパンの「ノクターン作品9-2」、ベートーベン40歳の作品で「エリーゼのために」、エリザベス・プレスリー「ラブ・ミー・テンダー」、ジョン・レノン「イマジン」、バッハ「フーガト短調」などです。

お気に入りには、誰にどんな思いで書いたものなのか今なお謎に包まれていて、時を超え、国境を越えて多くの人々に愛されるメロディの「エリーゼのために」です。誰でも一度は聞いたことのある曲でしょう。

目標は、「エリーゼのために」のように皆様に愛され、参加者ご自身が楽しみながら、絆を大切に『情報のネットワーク』を主体にして皆様と交流を図っていきたくと思っています。

まずは、交流会開催、スキルアップした茶話会開催、併行して講師の募集、エンブレム募集の検討、『セキジョ アッサル』友の会発足検討等息切れしない範囲で……。

せきじょ アッサル 「積女 ASSAL」とは

行動力 Action

体力 Strength

技術力 Skill

助言者 Adviser

女性 Lady

委員会メンバー

櫻井 陽子 (株)日積サーベイ

宮田 沙織 (株)川村積算

中島 春奈 (株)中野積算

飯田 ルミ (株)日本設計

天野しのぶ (株)久米設計

芹澤ひと美 (有)芹澤設計事務所

江藤久美子 NTT ファシリティーズ総合研究所(株)

佐藤 千秋 日建設計コンストラクション・マネジメント(株)

東 聡子 (株)大林組

松下 葉子 (株)日建企画

前田 伸子 三井住友建設(株)

家亀まどか 公益社団法人日本建築積算協会

田中さやか 公益社団法人日本建築積算協会

加納 恒也 公益社団法人日本建築積算協会

積女 ASSAL 第1回茶話会について



株式会社 中野積算
積女 ASSAL 委員
中島春奈

1. 開催概要

積女 ASSAL、第1回目の活動として、一般の方々を対象とした茶話会を開催することとなり、2015年10月24日(土)に第1回目の茶話会が開催されました。

はじめに、前田委員長より積女 ASSAL の概要、委員の紹介、建築積算とは何なのかというお話がありました。

その後、それぞれの委員の発表、茶話会という流れで開催されました。

第1回目の発表者は積算事務所勤務という事もあり、それぞれが専門に担当する分野の、業務内容および、数量積算方法が主なテーマとなっています。

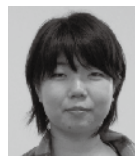
【発表内容】

1. 建具の拾いについて
2. 内装の拾いについて
3. 構造の拾いについて



2. 発表

■建具の拾いについて：(株)日積サーベイ 櫻井



建具については積算基準を交えて、基本的な業務の進め方について説明をさせていただきました。

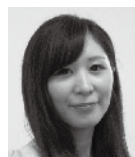
建具は寸法や仕様、アルミ製建具・鋼製建具等の種類ごとで分けて計上していき、建具面に取り付けるガラスやシーリング等の附合物を計上していきます。

建具の積算は、建具キープランより員数を数える、建具の面積よりガラスを計上するなど、数字的な内容だけの作業となりがちですが、面積や仕様・附合物により金額が高くなるため、1箇所の間違いが大きなミスとなってしまいます。単純な作業ですが、慎重に行い、チェックをすることが重要となります。

そこで、計上した数量が適正な数値か、どのように判断・チェックするかについても少し触れさせていただきました。

今回は15分という短い時間の中で建具の積算について概要的な部分しか触れることができませんでしたが、建具の拾いを行ったことがない人に少しでも理解を深めていただければと思いました。

■内装の拾いについて：(株)川村積算 宮田



本題に入る前に自己紹介を兼ねて、積算をすることになったきっかけと、学生の参加者もいらしたので、茶話会での話の種にでもなればと思い、卒業論文でどのような研究をしたのかも、お話しさせていただきました。

本題の内装の拾いでは、内装で拾うモノ・拾い分け・拾いの計算方法を説明しました。

内装で拾うモノは比較的建物の見え掛かりの部分が多く、構造に比べると、種類や納まりなどの想像がつきやすいです。しかし見た目(表層)が同じでも、拾い分けが必要となる場合があり、例として一般間仕切では、スタッドの幅・ピッチ別に拾い分けます。場合により条件がどのように異なるのかを理解しておく必要があります。

計算方法は『建築積算ガイドブック』の例題を参考とし、拾い分けについて触れながら、床・壁・天井の求め方を説明しました。

図面には全ての必要事項が書かれているとは限りません。落としなく正確な拾いをするためには、どのようなものなのか、なぜ必要なのかを理解することが重要であるということをお話しさせていただきました。

■構造の拾いについて：(株)中野積算 中島

構造の拾いについてということで、何を話しさせていただければいいのかと非常に迷いましたが、今回は主にRC造の躯体数量積算業務の流れ、拾い方、チェック方法について、代表的なことを説明させていただきました。

RC造の躯体拾いとして、「コンクリート・型枠・鉄筋を拾います。」と一言で言えばそれで終わりかもしれません。しかし、実際に拾いの作業をする上では、部位(基礎・柱・梁・床・壁・階段・その他)ごとに、それぞれ設けられている数量積算基準をもとにして、コンクリート・型枠・鉄筋の数量を算出していかなければなりません。

そして、各部材を拾い終えたのち、それぞれの数量を集計し、そこで建物全体のコンクリート・型枠・鉄筋の数量を算出したこととなります。

また、部位ごとに担当者が異なる場合には、ミスが減らすという意味でも、担当者同士がコミュニケーションを図り、お互いに確認作業を行いながら、作業を進めていくということが求められます。

限られた時間でしたので、非常に簡単ではありましたが、躯体の数量算出およびチェック・見直し方法について、『建築積算士のガイドブック』を参考にお話しさせていただきました。

3. 茶話会

建設業に携わる、学生からベテランの方々まで、非常にたくさんの方々にお集まりいただき、女子会らしくお茶やお菓子をいただきながら、非常に有意義な意見交換ができたかと思えます。

やはり、女性が集まると話は尽きないものだと感じました。静まり返ってしまったら、などという不安は不要でした。

4. 執筆者の感想

今回、「構造の拾いについて」を、お話しさせていただきました。自身の専門分野ではありますが、15分という限られた時間の中で、何をどのようにお話しさせていただけばいいのか、開催に向けての準備・資料づくりに苦労しました。

構造で数量を算出するものは、建物が完成してからは、目で見ることが難しいものです。見えないものであるが故に、苦手意識を持つ方も多いかと思います。しかし、建物を建てる上ではなくてはならないものだと思いますので、少しでも興味を持っていただけたらと思います。

発表をしている間、頷きながら話を聞いてくださった方や、茶話会の際には学生の方に「面白かった」というご意見をいただき、非常に嬉しかったです。

第1回目ということもあり、どのような方が参加してくださるのか、どれくらい的人数が集まるのかと、私自身も、委員の方々も、期待と不安でいっぱいでした。

いざ当日を迎えると、予想を超えるたくさんの方々に集まっていただき、さらに緊張するとともに、非常にホッとしました。また、私自身建設業界にいて、女性がこんなにも集まる場に参加したのは初めての経験でした。社内で業務を行っているだけでは、関わることのない方々とお話する貴重な場でもあると感じました。

今回、このような場で自身の業務内容について発表をさせていただき、自分自身さらにスキルアップしていかなければいけないと、改めて感じました。

積女 ASSAL 第2回茶話会について

株式会社 大林組
積女 ASSAL 委員
東 聡子

第2回茶話会は、内訳明細書の作成およびコストに関する講話を行いました。

「積女 ASSAL」の昨年の活動をご存じなかった方、またはどんなことをしたのか興味をお持ちになった方、もちろん当日参加していただいた方にも、当日のことを改めてご説明したいと思います。最初に、当日の講話タイトルとその説明者を講話の順に従って紹介します。

「積算事務所とゼネコンの仕事」：株大林組 東聡子……私は、建設会社(ゼネコン)で外注積算を担当しています。当社の外注積算担当とは、積算事務所に積算業務を行ってもらうにあたり、質問書や回答書のやりとり、内訳書のまとめ方の伝達、内訳書の数量チェックなどを担当することを言います。入社当時は仕上積算を担当していましたが、ここ10年程は外注積算を担当しています。



「建物のコストを出すには」：株久米設計 天野しのぶさん……天野さんは、ゼネコンで躯体積算や値入業務を経験し、現在はコストマネジメントに携わっています。

「少ない図面でコストをつかむ」：株日本設計 飯田ルミさん……飯田さんは、ゼネコンでの積算および値入の両方の経験があり、現在は設計事務所にてコストマネジメント業務に携わっています。

それでは、各々の講話の概略を述べたいと思います。

1. 「積算事務所とゼネコンの仕事」：東 聡子

私が勤務する建設会社(ゼネコン)の見積部は、

数量を算出する積算課と値入業務を行う見積課から構成されています。当社の積算業務は全てを自社内でこなすことができないため、多くの物件を積算事務所に委託し、我々外注積算担当者が窓口業務を行っているところから説明しました。今回は、他社設計の場合の入札物件を例に、その物件の見積設計図書の社内説明会～発注者に見積書を提出するまでの当社の各部門(部署)と我々外注積算担当者との関わりを、業務の流れに沿って話しました。また、外注積算担当者の主な業務内容(積算事務所が正確に積算できるようにするために的確な指示を行う。納品された内訳書の項目や数量のチェックを行う)や、不具合を防止するための対策などについても説明しました。

2. 「建物のコストを出すには」：天野しのぶさん

天野さんはゼネコンで値入業務をしていた経験から、単価設定の仕組みを説明しました。価格が決まる要因には、質・量・施工場所・需要の度合い等々があります。具体例として、コンクリートと鉄筋の単価を決める際の説明がありました。ベース単価にその物件固有の条件(手間代・加工費・運搬方法等)を加味して仕様に合った単価を決め、それら全ての金額を積み上げたものが工事原価(コスト)となり、そこに施工者の利潤を加えたものが工事契約価格(プライス)になるというお話でした。さらに、値入担当者の注意事項(特記仕様書や仕上表の熟読、項目落ちをしない等)についても説明がありました。



3. 「少ない図面でコストをつかむ」：飯田ルミさん

飯田さんは設計事務所の立場から、いかに少ない図面で的確な概算工事費を算出するかについて説明しました。建物の値打ちを高めるためのコストマネジメントとは何か？ 概算手法についてや、コスト管理表による各設計ステージごとのコストプランニング、コストコントロールについて、また、コストマネジメントの目的である投資コストに対する最大価値を得ることについてなどをお話しされました。また、コスト・プライスデータのデータベースとしての整備についてなど、コストマネジメントする際の注意事項（フロントローディングの重要性、品質とコストのバランス検討等）や、建築コストの変動要因が何か、顧客に対するコストの説明責任、コストとプライスに関するお話などを説明されました。



4. 「質疑応答 & 茶話会」

茶話会の時間をあまり取ることができませんでしたが、我々“ASSAL”メンバーも加わり、約40人がテーブル単位で気軽に意見交換しました。その中で、ゼネコンで値入を担当している方からは、私のように「積算に特化して数量チェックを行えば、二重チェックになりミスが防げますね」等、言葉を掛けられました。どうやら当社のように積算専門の外注積算担当者がある会社のほうが少ないようでした。また、積算事務所勤務の方からは、「初めて値入業務の話聞き、どういうことをしているのか知ることができた」とおっしゃっていただきました。

【第2回茶話会を振り返って】

ゼネコンは、発注者に“見積書を提出する”という目標に向けて、積算事務所に協力していただきながら内訳書を作成します。ゼネコン内部では我々外注積算担当が他部署と連携しながら、積算事務所での積算作業がスムーズにできるように伝達事項を明確にするよう努めています。そして、積算事務所と共に、誰が見ても分かりやすく・値入しやすく・正しい数量の内訳書を作成することに腐心していることを、ご参加いただいた皆様に

紹介できていれば幸いに思います。

また、天野さんと飯田さんの講話は、私も聴講者の一人として非常に勉強になりました。単価設定のしくみや物件の規模・敷地状況・工期などあらゆる条件が一つとして同じものがない中で、その物件の特性をとらえて価格を設定していることがよく理解できました。また、後工程の値入業務のしくみを知ることができ、見積業務の一連の流れを把握することで積算業務の位置付けを知り、数量算出が価格を決める上で重要なファクターであると再確認しました。数量を算出する仕事は、ゼネコンだけでは成り立たず、積算事務所の存在が必要です。会社は違えども“内訳明細書を作成する”という同じ目標に向って、品質（正しい数量）を確保できるように協力し合っ業務に励みたいと思います。私は、さまざまな見聞がその人の知識を広げて専門分野が深まっていくと確信しています。今回のような女子会に参加して、異なる職種の方々と懇談するのも自己研さんに繋がるのではないのでしょうか。私自身もこの「積女ASSAL」の活動を通して、会社の業務においてだけでなく、女性として・社会人として成長していきたいと思っています。今後も、この記事を読んでもくださっている方々の和が広がっていけば嬉しく思います。

●天野さん談……………

茶話会の参加者の多くが、自分の仕事かどのようにつながっているのか深く理解できないままに、日々の仕事に追われているのが現状かと思っています。一歩踏み出してこの会に参加し、横のつながりが垣間見えることにより仕事に対するモチベーションがアップするようになればいいと思います。また、そういう会になればいいと思っています。

●飯田さん談……………

茶話会への参加者各自が、どんなテーマに興味を引かれ、どんな価値を求めて参加されるかはそれぞれ異なるかと思いますが、参加される皆さんが主役となれる集まりと考えます。いろいろな仕事のしかたやそれぞれの立場を知ることにより、現在の自分の仕事での立ち位置も感じることができると考えます。今後もぜひ参加したいと思えるような会に、皆さんと一緒に作りあげていけるといいなと思っています。

積女 ASSAL 第3回茶話会について



株式会社 NTT ファシリティーズ総合研究所
積女 ASSAL 委員、情報委員会委員、広報委員会委員
江藤久美子

1. 開催概要

2015年12月5日に開催された積女 ASSAL 第3回茶話会は、建築を取り巻く業務・技術についての紹介です。積算士やコスト管理士の業務に直接関連しているわけではないけれど、知っているとお得、そして今後は知らない困るかもしれないことがテーマになっています。



積女 ASSAL を紹介する前田委員長

まずは、前田委員長から積女 ASSAL の活動内容と委員の紹介、続いて3人の委員たちが自身の業務内容などを発表しました。その後の茶話会では、参加者を交えておよそ40名で意見交換を行いました。



3人の発表者 左から佐藤さん、芹澤さん、江藤

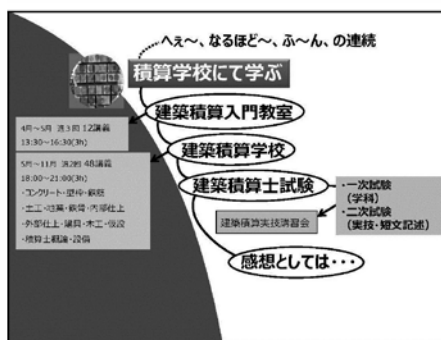
【発表内容】

- ・ 設計事務所のお仕事
- ・ BIMってなんだろう？
- ・ コンストラクション・マネジメントってなんだろう？

2. 発表

● 設計事務所のお仕事

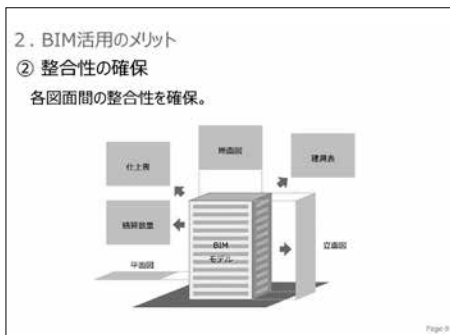
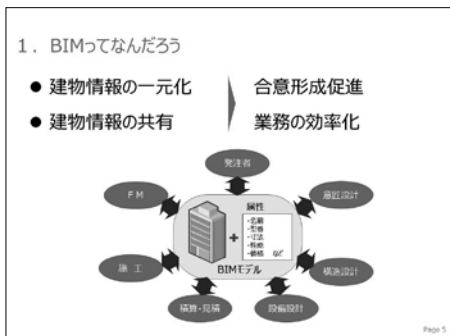
1人目の発表は、ご夫婦で設計事務所を営んでいる芹澤さん。設計事務所の仕事の紹介や設計の仕事しながら日本建築積算協会主催の積算学校に入学・卒業された経緯について、ユーモアたっぷりにお話をしてくださいました。参加者の心を掴んで、会場が和やかな雰囲気になりました。



設計事務所のお仕事 発表資料

● BIMってなんだろう？(入門編)

2人目の発表は、江藤です。2015年の建築コスト管理士の試験問題にも出題されたBIMの概要を紹介しました。BIMの特徴やメリットなど、比較的簡単な内容だったため、もう少し踏み込んだ内容も紹介して欲しいとの要望があがりました。機会があれば、中級編もお話したいと思っています。



BIMってなんだろう？ 発表資料

● コンストラクション・マネジメントってなんだろう？

3人目の発表者は、日建設計コンストラクション・マネジメントで予算の組立や概算等を担当している佐藤さん。女子会らしくピンクの可愛いプレゼン資料で「コンストラクション・マネジメントってなんだろう？」というテーマでお話しされました。

コンストラクション・マネジメント (CM) とは？

コンストラクション・マネジャー (以下CMrという) が技術的な中立性を保ちつつ発注者の側に立って、設計・発注・施工の各段階において、設計の検討、工事発注方式の検討、工程管理、品質管理、コスト管理などの各種マネジメント業務の全部または一部を行うものである。

【国土交通省CM研究会発行「CM」2002.3】



コンストラクション・マネジメントってなんだろう？ 発表資料



発表の様子



質疑応答の様子

3. 茶話会

第3回の茶話会は、第1回や第2回の茶話会に比べて、積算士やコスト管理士と直接的な関わりが少ないテーマだったにもかかわらず、学生さんをはじめとする若手からベテランの方まで、幅広い年齢層の方々にご参加いただき、活発な意見交換を行うことができました。

3回の茶話会を通して感じたのは、参加者や発表者の皆様のお仕事への情熱です。今後も、積女ASSALの活動を通じて、さまざまな分野で活躍されている方々と楽しく充実した時間を過ごすことができると幸いです。



茶話会の様子

生涯「らせん階段」を上るように生きる

早稲田大学次世代建設産業モデル研究会主宰 五十嵐 健

BSIJ-CPD 認定記事 1単位

人生90年時代の仕事と遊び

前回は、この半世紀の自分の仕事の変化を、社会環境との関係を考えながら振り返ってみた。その結果建築の仕事も、かつての高度成長期と今のような低成長期では、大きく変わっていることが判る。

そうした流れを掴み早く対応していくことが、仕事をしていくうえで有利になるだろう。その時、私が変化の指標に使ったのは、建築ニーズと物価デフレータだった。

今はアベノミクスの効果もあって、一時の不況は脱したが、本格的な景気回復とまではいかない。そんななか、若い人の中には将来を不安に思う人が多いと思う。

今回は個人のライフスタイルをテーマに、人生90年時代の中で、仕事と遊びをバランスさせながら、いかに長く充実した人生を続けることが出来るのかについて考えてみたい。

私たち団塊の世代は、仕事人生の終わりの時期である50代から60代前半にかけて、社会情勢が大きく変わり、多くの方がリストラや年金支給の繰り延べで苦勞した。私もその一人だが、後半の人生の再設計を余儀なくされた人も多かった。

それでも先日、ある仕事のOB会があり、久しぶりに同世代の苦勞した仲間と会い楽しく語り合ったが、多くの方は60代の後半まで仕事に携わり、充実した人生を送っている。

「会社を楽しむ、仕事で遊ぶ」生き方をしたい

そんな人達の生き方の極意は何か、自分の人生にてらして考えてみたい。私は会社生活にも慣れた40代の頃から、「会社を楽しむ、仕事で遊ぶ」生き方の出来る人間になりたいと思っていた。

当然、会社の仕事では異動や転勤、失敗、不景気など様々な苦勞がある。時には意に沿わない仕事やソリの合わない上司の下につくこともあり、他人の失敗で



五十嵐 健 (いがらしたけし)

早稲田大学理工学術院総合研究所招聘研究員
早稲田大学次世代建設産業モデル研究会主宰
日本建築学会建築施設マネジメント小委員会委員

1943年生まれ。博士(工学・早稲田大学[専門:建築経済、建設経営、地域経営])
不動産建設(現株不動テトラ)取締役の後、現職。
著書:『建設産業、新“勝利の方程式”』
『200年住宅のすすめ—長く使える家の経済学』
(以上日刊建設通信新聞社刊)
『地域創造計画ハンドブック』(共著、鹿島出版会)
『建築産業再生のためのマネジメント講座』(共著、早稲田大学出版会)



損をすることもある。

しかし、そういうことも全部認めたらうで、「会社を楽しむ、仕事で遊ぶ」名人芸的な生き方をしたいと思ってきた。

今振り返ってみると、多くの新しい仕事を担当させてもらい、それなりの成果を上げたという充実感がある。また定年で大学に籍を移してから、企業での仕事とは異なる達成感があり、70歳を過ぎた今も新たな分野の研究にチャレンジしている。

そうした生き方は、孔子の教えである「学びて時にこれを習う、また楽しからずや」に近いのでは思っている。

学びて時にこれを習う、また楽しからずや

いきなり孔子の教えを出したが、私は特に漢文の素養がある訳でもない。たまたま高齢になって、人から孔子の教えの意味を聞いただけだ。

上に挙げた言葉の意味は、学ぶことの楽しさを言っている。ただ学ぶとか習うということは、単に知識として知るだけでなく、それについて深く考え、その結論を実践して追求していくことで、現代の仕事にも通じる。

私は会社の中で、目の前の仕事を深く習得し、それを次の新しい仕事に役立てるやり方でやってきた。そのために、初めての仕事で失敗することには、あまり気に留めなかった。

むしろそれを改良して、次の仕事に役立てることの方が楽しみだった。そうしたやり方は研究開発の仕事だけでなく、営業や工事現場などあらゆる仕事に通じる。初めは失敗しても、2度・3度とチャレンジすることで必ず成功に至る。

そして失敗を重ねながら、次第にやり方のレベルを高めていくと、はじめに自分が考えてもみなかったことができるようになる。それは非常に楽しいことだ。さらにそれを仲間と一緒にやり、後輩を指導していく段階に入るとさらに楽しい。

そして、「師曰、これを知る者はこれを好む者に如か

ず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」やがて、「会社を楽しむ、仕事で遊ぶ」ビジネスマンの達人の境地に入ることがきる。

向こうから飛び込んでくる人生のチャンス

それは、会社人生だけで終わるわけではなく、私にとって第二の人生である大学の仕事でも同じことだと思っている。

若い研究者や学生の指導をしながら、共に新たなことを学び考える喜び。しかもそうした精神的な充実感、身体の活力も生む。この年になってその大切さも知った。

私は孔子の教えを深く学んだわけではなく、むしろ生き方は、現代的な合理主義の精神に立脚していると考えている。そうでないと、そもそも工学の研究は出来ない。でもその生き方に孔子を見出すとは発見である。

若い後輩たちからは、どうしたらそうした達人になれるのかという質問も出る。一つだけ、大学を出るときに先輩から聞いた話で、今も鮮明に覚えていることがある。

その先輩は会社に入って間もなく、現場造成杭の杭頭の亀裂を検査する仕事を言われたそうだ。しかし、大学でそんなことを勉強したことはなかった。色々悩んで試した末に、バケツで水をかけて亀裂を探すのが最も効率が良いことが分かったという。自分で考え工夫することを知ったことで、それから現場の仕事が楽しくなったと言っていた。

どんな仕事でも、その中から深く考え新たなやり方を発見し、実践していくことはできる。そうした楽しみ方を追求していくと、人生の後半では「会社を楽しむ、仕事で遊ぶ」達人になれる。その訳は、周囲の人が「この人は新しい仕事や難しい仕事が好きだ」といつて、向こうからそういう仕事が飛び込んでくるからだ。

ビジネスの達人になるための極意

それは、目の前の仕事に自分なりの意義を見出し、それを成し遂げてくことで、やがて自分の存在を周囲から認められ、その仕事の達人になれるということだ。しかし、長い人生、それだけで自分のモチベーションを維持し続けることは難しい。そこでもう一つの重要な要素について考えてみたい。

もう一つの重要な要素、それは自分の成長だけでなく、部下の成長や家族の幸せ、組織への貢献やその拡大など、広く周囲への影響や関わりについて意識しな



がら、仕事を続けることだ。仕事をしていて、失敗が続くとどうしても気持ちがなえる。そんな時、家族や友人から励まされると、自分は一人ではないこと、理解してくれる人がいることに勇気付けられる。また、その仕事の成果が会社や社会に貢献していることを理解できるとさらにモチベーションがわく。

一方、仲間と励まし合い切磋琢磨して努力している時は、競争心もあり思わぬ障害もとび越えられる。そして、何年か経って当時の苦しかったことを振り返ると、たくましく成長している自分にも気付く。それは最も楽しいひと時である。またその間に、多くの友人や知人に世話になっていたこともわかる。

考えてみると、そうした友人や仲間の多くは、その時の利や理よりも、生き方に共感して手を差し伸べてくれたことの方が多い。

チームへの貢献と個人技のアピールを両立

そうした、自分の殻を超えた世界で、成長していく楽しさを知る生き方も、「人生の達人」になるために必要である。個人の学習とその実践を、周囲との関係で考えることの必要性は、孔子の言葉に多くある。その究極の形が彼の唱える「礼」なのだろう。

サッカーのオリンピック・アジア最終予選で、日本の若者U23が決勝で韓国に勝ち、リオデジャネイロオリンピック出場が決まった。当初、この世代は谷間の世代といわれ優勝は無理だろうと言われていた。しかし試合を勝ち進むにしたがって、個々の選手に自信が付きチーム力を増していった。最後に、全員が一丸となって勝利に向けて駆け込む姿は感動的だった。

考えてみると、手倉森監督のやり方は、そうした「人生の達人」の生き方を実践しているように思える。サッカーと言う個人の判断が重要な意味を持つ高度な団体競技のなかで、グラウンド上のメンバーを縦横に活躍させるためには、監督の意思と行動理念が選手に徹底していく必要がある。

そして試合では、それを自在にコントロールし、個

人の力量以上の成果を生み出す。選手たちも、そのことを十分理解し、チームの勝利への貢献と個人技のアピールを両立させている。

成長社会から成熟社会への転換点に必要な教育

考えてみると今の学校教育は、効率よく社会に必要な知識を学べるようにつくられている。そのために、確立された知識を体系的に教え、さらに入学試験では公正にそれを評価するために、あらかじめ正解がある問題が出される。

そのため今の学生は、知識は豊富だが思考力が弱いと言われている。さらに最近は、パソコンのWEBサイトで必要な情報を簡単に得ることが出来るため、自ら努力して調べ考えることが少なくなった。

一方、社会は成長社会から成熟社会に変わり、これまでの常識が通用しなくなることが増えている。そのため、現実には起きている事実を踏まえ、自分で考え判断する力が要求されている。

特に、仕事の世界では、高度成長期に形成された定石を打破り、新たなやり方をすることが強く求められている。ただ、その考えが独りよがりの真実では困るので、考えに至る事実の分析や、それを論理的に展開して新たな真実に至る科学的なやり方の習得が必要になる。

私は大学の研究所に居るので、学生の卒業研究を指導している。そのゼミでは、自分で研究のやり方を考えて、必要なデータを集め、分析考察をするよう指導している。そうした自ら学ぶ勉強を初めて経験する人が多く、最初は戸惑いがある。しかし、半年ほどの間にそのやり方を見事に習得し、見違えるように成長する。その成長の過程を見るのが、私にとっての楽しみである。

人生90年時代に向け、50の手習いを始める

私は、リストラの嵐が吹き荒れる2000年頃に会社をリタイアした。その時50代半ばだった私は、これからの人生が、これまでの会社人生と同じ長さであることに気付いた。

その時間を有効に過ごすために、一から出直すことを決め、大学の門をたたき博士学位の取得を目指した。今振り返ってみると、ビジネス界と学者世界の2つの異なった社会を味わうことが出来、大変充実した人生を過ごしていると満足している。

確かに、自分の人生を180度換える決心をしたときには不安があった。しかし、長い社会経験を経た後で

の転換は、思ったほど難しいことではなかった。

先輩や研究仲間が何かと気を使い、手を差し伸べてくれた。困難に直面した時には、意外とこれまでの経験が役に立つ。そんな訳で、「案ずるよりも産むが易し」である。

日本は今、急速に高齢社会に移行しつつある。現在は、20歳から65歳までの就労世代と高齢者の割合が2.5対1であるが、10年後には1.9対1になる。それは、2人の就労世代で1人の高齢者を扶養することを意味する。

こうした状態のもとで、子供手当や高齢者医療を充実させるだけでは社会の活性化は難しい。

超高齢社会の到来による、社会の壁を突き破る

現代社会の仕組みは、成長期の学習と壮年期の仕事を経て、老後の余暇生活へと年を経るごとにステージを上がることを前提に設計されている。

確かに、成長期の長期にわたる学習で優れた能力を身につけ、心身ともに充実した壮年期に仕事と子育てをし、体力の低下する高齢期には余暇生活に入る社会は効率が良い。

こうした直線階段型のライフスタイルは、人間の生物としての成長過程に即した、効率のよいライフスタイルで、それが今日の経済発展に繋がったと考えている。

しかし、人生90年時代を迎え、この制度の矛盾が表面化し出した。一つは、就業世代とリタイア世代のバランスが崩れ、年金や医療制度など社会保障のシステムを、費用負担の面から将来にわたる維持が難しくなったことである。

もう一つは、60代からの第2の人生が現役時代と同程度に長くなり、体力的にも元気でいられるようになった。そして、これまで余生と考えていた後半の人生の生き方が、個人と社会にとって重要になったことだ。

このため、現在65歳以降の就労期間の延長や、医療や年金のあり方が議論されているが、まだその中身は高度成長期の延長線上にあり、生涯ライフスタイルの転換には至っていない。私はその解決策として、らせん階段型の生き方を提唱している。

生涯を充実しておく「らせん階段型」人生とは

それは人生の中間点でリフレッシュ教育の機会を得て能力の再生を図り、生涯にわたって充実した人生をおくることができる生き方だ。

社会との関わりを続けながら自分流の人生を生きている人の中には、高齢に至るまで元気な人が多い。反対に、定年で人生の生き甲斐を失った人の中には、健康を害する人が多いとも言われている。

人生の中間点でその後の生き方を考え、それに向けて新たな能力を身につける機会ができれば、生涯を現役でおくる人が増えるだろう。それによって就労世代の負担が軽減し経済活力も創出される。

また厳しい経済環境の中でニートや若年ホームレスが増えるなど、若者世代の疲弊が著しい。学校の卒業年代や就職先でその後の人生が決まり、長い生涯を失意のまま過ごすことは社会の損失だ。

そのためには、30代、40代で人生のリセットが行えるリカレント(再生)教育の機会も、費用の仕組みも含めて充実させる必要がある。そうした本格的な教育機会の整備は、若者だけでなく、子育て後の女性の社会参加にとっても有効だ。

そうした制度を整備することで、現在30代から50代に集中している社会の負荷を、70代ぐらいまで広げて若者世代の負荷を軽減し、就業能力と期間を拡げることで経済活力を増大させ、出生率を高めることにもつながる。

また、生活を切り詰めて老後のために貯蓄に回しているお金を楽しみのために使う人が増え、消費の増大にもつながるだろう。

90歳まで視野に入れ、ライフプランを思い描く

ただ個人としては、そうした機会の整備を待つのではなく、90歳までの人生を視野に入れ、積極的に自分のライフプランを思い描いてほしい。そうすればおのずと情報が寄ってくるので、チャンスが増えそれに乗れる。

20年前のバブルの時に書いた自分の第二の人生のシナリオでは、会社人生の最盛期にいた私には、50代の後半に大学で学び、研究生活に入ることは夢のまた夢だった。しかしそれが実現している。

ただそのチャンスは、いつも遅れ気味にやってくる。それは自分がそうしたいと気がつくのが遅いからだ。しかし私の経験からすると、その時点で行動に移すのに“遅すぎる”ということはない。なぜなら今の生涯はとても長いからだ。

(続く)

実録フィクション

さいはての CMr (コンストラクション・マネジャー)

第 5 回

加納恒也

公益社団法人 日本建築積算協会
副会長・専務理事

- [登場人物] 天野清志：高尾建築研究所チーフ・コンストラクションマネジャー
 高尾 哲：高尾建築事務所・高尾建築研究所社長
 小南由之：高尾建築事務所常務取締役
 吉野 清：高尾建築事務所取締役
 春馬竜之：高尾建築研究所コンストラクションマネジャー
 矢沢周吉：今宮市プロジェクト推進室長
 内村利幸：今宮市プロジェクト推進室課長補佐
 後藤良雄：今宮市プロジェクト推進室係長
 逸見紅郎：逸見設計事務所代表取締役、今宮市在住
 長浦 浩：長浦構造設計事務所代表取締役、今宮市在住
 岡本照泰：鷺田大学理工研究センター研究員、設計ゼネラルマネジャー

SCENE 11

2000年4月…CM説明会の朝

“春がきた！”抜けるような青空がCM方式の門出を祝福しているかのようだ。海に面した高台に建つ「プチホテル友好園」の窓を開け放つと、今宮湾からの潮風とウミネコの鳴き声が風に乗って漂ってくる。

二日酔いの澱が頭の隅に残っているようだが、それも今日のすがすがしさと一体になって天野の気分を高揚させている。あわただしい1か月が終わった。先行発注した解体工事、共通仮設工事、杭1期工事については前年度分の出来高を確保し、本体着工の準備もようやくめどがたった。設計図の完成度はまだ十分ともいえず、予算書もいろいろ問題を含んでいるようだが、まずはようやく本日の「CM説明会」の開催にこぎつけた。

「天野さん、CM説明会には奥さん連れてきなさいよ。」

10日ほど前、高尾社長が突然言い出した。隣で、常務取締役の桜子社長夫人が笑っている。

「うちの家内、いや常務も出席しますが、天野さんが1年半単身赴任する今宮市を奥さんに知ってい

ただくことも必要だと考えたのですよ。常務も女性の話し相手が欲しいとも言っていますし。ぜひ、ご一緒してくださいな。」

「しかし、家内も仕事がありますし、とにかく都合がつくか調整してみます。」

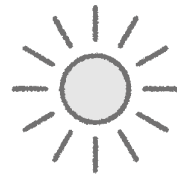
まあ十中八九断るだろうな、という天野の予測は見事に外れ、妻は今宮ツアーに参加することとなった。盛山に住んでいる娘と久しぶりに会えることが、参加の動機だろう。

それやこれやのやりとりがあつて、4月4日の昼過ぎ、高尾建築事務所一行7名が今宮に勢ぞろいしたわけである。

「今週は好天に恵まれるようだよ。さて、これから昼食をとって、今日は浄土海岸や海鮮市場を回ってみよう。夜は逸見さんご夫妻も呼んで宴会だな。」

高尾は相変わらずテンション高く、この世の明るさを一身に浴びているように笑顔が絶えない。小南、吉野も久しぶりの今宮だ。天野とともに今宮に赴任している入社2年目の春馬が、気を利かせて女性陣の荷物を持った。

“やはり魚がおいしい。魚には日本酒が合う。最果ての地の居酒屋の雰囲気も最高だ。明日のことは



忘れて、今夜は精一杯楽しもう。さてよ、そもそもプレッシャーを受けるのは、明日の説明会で出番がある自分だけ、みんなは純粋に楽しむことだけだ”天野は独り相撲をとっているようで、なんだかばかばかしくなってきた。

横を見ると、妻の順子も桜子や逸見夫人の節子と楽しそうに話し込んでいる。やれやれと気を休めて、天野のお酒のピッチは早まっていった。

4月5日午後2時から開催されるCM説明会(正式には入札説明会)は、文化会館を会場に、大手ゼネコン・地元ゼネコン・設備工事会社といった元請クラスと、専門工事会社やメーカーといった下請クラスの企業が参加する予定だ。公共工事で初めて本格的に採用されるCM(コンストラクション・マネジメント)方式であることから、新聞社をはじめとしてマスコミも多く参加しそうだ。

基本的には市の担当者が説明するのだが、CM方式の質疑応答に関しては、天野が担当することになっている。おそらく大部分は矢沢室長の独演会になりそうだ。

ホテルで朝食をすませると、男性陣は市役所に、女性陣は逸見夫人の運転する車で市内巡りへと出発する。

9時に市役所へ到着する。プロジェクト推進室では内村と後藤が資料を車に運ぶ準備をしていた。

「おはようございます。本日はよろしくお願ひいたします。」

高尾の元気な挨拶に、机から顔を上げた室長の矢沢は、

「皆さん、おはよう。今日はよろしくお願ひします。」

机の上にある資料は、今日のシナリオなのだろうか。資料から目を離すと、

「後藤くん、現地で早めにプロジェクターの映り具合を確認してね。」

「内村くん、参加者名簿用のパソコンを忘れないように。」

次々に指示を出すと、席を立ちソファーに移動する。

「高尾さん、皆さん、こちらにお座りください。」

運ばれてきたお茶を一口嘍ると、

「今日の天気は最高ですね。本当に春らしい。」

矢沢の言葉を引き取った高尾は、

「きっとCMの門出を祝福してくれているのでしよう。幸先が良いですね。」

プロジェクト室にいる全員が明るい雰囲気、CM説明会の準備を行っている。

「天野さん、質疑応答の部分はよろしくお願ひしますよ。どちらかと言えば反対派のほうが多く来るようですから。きっと意地悪な質問も出ると思うよ。」

矢沢の言葉に天野は、

「承知しました。なにも難しいことをやるわけでもありませんので、わかりやすく回答するよう努めます。説明の分担は決まりましたか。」

「全体のスキームとCM方式部分は私が担当します。入札手続き部分は内村課長補佐が行います。説明が約1時間30分、質疑応答が約1時間と予定しています。」

資料運搬の準備は整ったようだ。

高尾建築事務所一行は、文化会館で事前準備を行うことにした。

SCENE 12

CM説明会

約1,000名の収容人数の半分以上が埋まっている。かなり関心が高いようで、まずまず盛況だ。最前列から後ろを見渡していた天野は、質疑応答予想をまとめた資料に再び目を転ずる。このような質疑応答予想がそれほどの中しないことはわかっているが、なぜか準備不足の時に限って答えられないような質問が出るという事実は、地道な準備の大切さを認識させてくれる。運命の神様は、常に努力を見守ってくれているのだろうか。

今回のプロジェクトは、建築・電気設備・機械設備・外構工事が分離発注される。CM方式では、各工事を細分化し分割発注するが、それらをコストオンに近い形で「統括施工管理会社」と呼ばれる、ゼ

ネコンと電気・機械の設備工事会社が請負工事として管理することになる。外構工事は分割されず一括で発注される予定だ。

建築工事では、直接工事と共通仮設工事つまり純工事費の範囲はすべてコストオンとなる。ゼネコンは、統括施工管理会社として、「フィー」と呼ばれる現場管理費と一般管理費等を受け取ることになる。フィーは固定金額で、工期等の条件が変化した場合にのみ変更される。ただし、共通仮設工事のうち什器備品類に関しては、ゼネコンで負担する。

分割して発注される工事数は、200以上にもなる。建築工事での例をあげると以下のようなものがある。

- ①金属工事：ルーフトレーン(材)、縦樋(材工)、アルミ笠木(既製品・材工)、ノンスリップ(材工)、軽量鉄骨間仕切・天井下地(材工)、スチール製作物(材工)、ステンレス製作物(材工)、チタン製作物(材工)
- ②左官工事：左官工(工)、砂(材)、セメント(材)、接着剤・混和材(材)
- ③内装工事：床シート(材工)、床タイルカーペット(材工)、塗床(材工)、壁・天井ボード(材工)、壁・天井クロス(材工)、遮音間仕切(材工)

また、電気設備工事と機械設備工事は、一般に「A材」と呼ばれる機器類および器具類が分割して発注される。また、「B材」と呼ばれる配管・配線工事とダクト工事および「専門工事(外注工事)」である自動制御設備工事も分割して発注される。ただし、「A材」に関する労務費については、設備工事会社の範囲となる。また、設備に関する共通仮設工事と直接仮設工事についても、設備工事会社の範囲となることが建築と異なっている。設備工事での例をあげると以下のようなものがある。

- ①電気設備工事：盤類(材)、トランス・コンデンサ(材)、発電機(材)、照明器具(材)、配管・配線工事(材工)
- ②機械設備工事：冷熱源機器(材)、製缶(材)、ポンプ(材)、空調機器(材)、ファン(材)、衛生設備機器(材)、配管設備工事(材工)、ダクト設備工事(材工)、自動制御設備工事(材工)、タラソ特殊設備工事(材工)

分割発注される各工事は、今宮市から委託を受けたCMr(コンストラクション・マネージャー)が入札を実施する。基本的に3社の指名競争入札となり、今宮市とCMrそして施工管理会社からの推薦をもとに、指名会社を決定するといった方法をとる。指名会社は今宮市に本社あるいは営業所等が設置されていることが望ましいが、現実的には東北全体に枠を広げざるを得ないことになる。

なお、入札に際しては、金抜きの内訳明細書が交付される。ここに記載されている項目・数量は参考ではなく「指示項目・数量」であり、市が責任を持ち、内容に間違いがあった場合は、工事費の増減変更を行うことになる。

落札した会社は、落札金額そのまま統括施工管理会社と下請契約をするわけだが、このルールを担保するために、協定を締結する。ここでは「CM協定書」と呼んでいる。これは、一般のコストオンにおいて「コストオン協定書」を締結するのと同様である。

下請契約後は、一括請負と変わらず工事が進められるが、工事内容に変更があった場合には、CMrと下請企業である専門工事会社とで変更金額の協議を行い、決定した金額で統括施工管理会社の請負金額が変更される。

つまり、統括施工管理会社は、ほとんど純工事費に関しては原価管理を行う必要がない、コスト面はCMrに任せておいて、主として品質・安全・工程管理に注力すればよいといった仕組みとなっている。ただし、この仕組みが建設現場の実態と適合しているかは、この時点では検証されていない。

以上のように、仕組みはそれほど難しいものではないが、なにせ建設業では目新しいルールなので、理性ではなく、情緒的に受け入れられないといった状況も見受けられる。特にゼネコンにとって下請企業である専門工事会社やメーカーの決定という「調達権」は、聖域とされているところであり、コストオンに対する反発が根強いこともこのあたりにあるのだろう。

さて、時間となった。天野はステージに上がり、テーブルの端に席を占めた。進行役の後藤係長がマイクの前に立ち、説明会が開始される。

矢沢室長の流暢な説明は相変わらずだ。高尾建築研究所が商標登録したCMビジネスモデルであるアリス方式を研究し、地方自治法と整合した「今宮方式」を完成させた矢沢の説明は、自信にあふれよどみなく続けられる。600人余りの参加者は、真剣に聞いているようだ。続いて内村課長補佐が入札手続きについての説明を終えると、いよいよ質疑応答の時間になった。天野は演壇のマイクの前に立つ。

「ご質問がある方は挙手願います。マイクを持っていきますので、会社名と質問内容をお願いします。」

しばらくの静寂。手を上げようかと迷う空気が流れる。

「はい！」思い切ったように手が挙がる。市の係員がマイクを持って小走りに近づいていく。

Q1「田部建設です。仮設工事も分割発注されるのですが、ゼネコンの仮設計画と違ったものにはならないのでしょうか。工事中の変更に対応していただけるのでしょうか。」

A1「お答えします。CMrが仮設計画を作成しますが、統括施工管理会社が決まりましたら、共通仮設と直接仮設についての計画を協議いたします。そのうえで、工事費内訳明細書を作成し、それにもとづき入札を行います。工事中の諸事情により仮設計画の変更が生じた場合は、協議の上工事費の変更を行う場合があります。」

このお答えでよろしいでしょうかと、天野は確認する。

もう一人手が挙がった。

Q2「山田鉄筋工業所です。専門工事会社として指名されるには、どのような手続きをするのでしょうか。」

A2「今回の工事規模や工事期間からみた施工能力や技術力その他を検討する予定です。特に指名願いの提出などの手続きは考えていません。先ほど説明があったように、基本的には地元あるいは東北地方に本社あるいは営業所等がある企業を中心に考えています。」

また大きく手が挙がる。

Q3「飯島建設です。清掃片付費や産廃運搬処理費、それから^{はら}り費といった変動費については、どのように発注するのですか。それと、費用はどの業者にどのように負担させるのですか。」

なかなか難しい質問だが、想定内だった。

A3「統括施工管理会社が決まりましたら、内容の協議を行います。」

清掃片付費については、毎月の目標人数を決めてプロジェクト管理表を作成し、総額で契約を行います。毎月の稼働表を確認し、最終的には人数で清算を行います。ただし、目標人数に向けて努力していただくようお願いします。また、一斉清掃等について各専門工事会社の協力をいただくことは通常の現場と同様ですが、直接的な費用負担は求めません。産廃運搬処理費についても、目標台数を決めて、総額で契約します。毎月の確認と清算については同様です。

斫り費については、CMr側で一定の予算を組み、暫定的に契約します。毎月の斫り費用について、ゼネコンおよび型枠会社の責任有無を確認し、場合によっては一定額を負担していただくことも考えられます。どこにも責任がない場合は、市が負担します。」

Q4「入札で決定した専門工事会社やメーカーが倒産した場合は、どのようになるのでしょうか。」

これも厳しい質問だ。

A4「倒産に関しては、市の責任で代替企業を探すこととなります。統括施工管理会社のご協力もいただきたいと考えていますが、責任はあくまで市にあります。」

Q5「市が入札で決定した会社について、ゼネコン側での瑕疵担保責任は取れないと思うのですが。いかがでしょうか。」

A5「入札で決定した専門工事会社あるいはメーカーについては、統括施工管理会社との合意を前提にしていますので、元請の瑕疵担保責任は存在すると考えています。」

やはり関心が高い。活発な質問が続き、予定の1時間はまたたく間に過ぎていった。

「お疲れ様でした。余り批判的な質問は出ませんでしたね。かえって気が抜けました。」

内村がほっとした顔で笑いかけた。矢沢も珍しく表情を和らげている。

高尾たちも後方のシートから立ち上がり、こちらへ歩いてくる。

「皆さんお疲れ様でした。なかなか盛り上がった

説明会でしたね。いやー、矢沢さんは相変わらず素晴らしいプレゼン能力ですね。内村さんもわかりやすいご説明でしたね。後藤さんの司会はプロ顔負けでしたよ。」

高尾は市の3人にひとしきり愛想を振りまいて、「天野さん、ありがとうございます。毅然とした回答で信頼感抜群でした。このCM方式で順調に工事が進むことを確信しました。奥さんもうっとり見ていましたよ。ねえ奥さん。」

“いい加減にしてくださいよ”と天野は胸の奥でつぶやき、資料を片付け始めた。

SCENE 13

岩木県庁にて

「内容を詳しく精査していませんので、的確な対応ができるか心配ですよ。自分の会社のことで申し訳ありませんが、なんで私がピンチヒッターなんでしょうかね。」

4月9日の朝、盛山へ向けて峠を走る車の中で、天野がぼやいている。岩木県農政部への工事費予算書(工事費設計書)説明について、高尾建築事務所の積算担当の都合がつかなくなり、天野に代理の依頼が来たのは、3月末のことだ。日時も決まっており、天野としては受けざるを得ない。

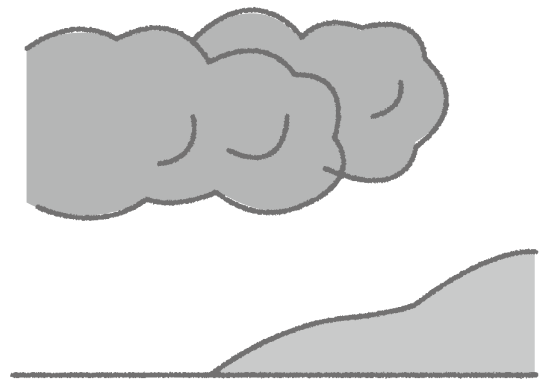
工事費予算書を県に承認してもらい、補助金を確定するため、今宮市の内村・後藤と建設課から笹山係長が同行している。

前日4月8日には、県の今宮地方振興局農政部に内容の報告に行った。詳細な内容審査は翌日県庁において行うということで、概略の報告で終了した。

「県庁に行くのに、出張命令が必要なんです。ほんと遠いです。出張費はもらえるけれど。」

運転をしながら、後藤もぼやく。

10時30分から県の審査が始まった。審査担当の大林主査は、偉ぶらない温厚な人物のようで、公平な態度で審査を進めていった。メーカーや専門工事の見積りに対する掛け率が、県や市の一般的な基準よりもかなり低いことについて、特に説明を求められたが、民間ベースの妥当なレベルとした、という説明を了解いただき、審査は無事終了した。



まさか半年後に再び工事費予算書の審査が行われ、前回と打って変わった厳しい責めを受けようとは、知る由もない4人であった。

SCENE 14

統括施工管理会社決定

4月25日に本体の入札が行われた。

建築工事の統括施工管理会社は赤坂建設・今宮建設JV、電気設備工事は小田電業、機械設備工事は麻工設備・陽平設備JVに決定した。

4月初めから再度の積算がスタートしている。数量・単価とも適正なレベルを確認し、5月中旬までには金額がまとまる予定だ。工事費のアップはほぼ確定的だと考えられるが、一体どの程度になるかは見当がつかない。腹を据えて待っているしかないなど、天野は当面やるべき仕事に集中することにした。議会承認の準備はできた。受注者との契約手続きも進んでいる。

「天野さん、契約の協議を進めていましたが、赤坂建設から瑕疵担保責任やCM方式について修正提案が出されました。どうも大手建設業の団体である総合建設業協会が業界ぐるみのチェックをしているようです。これは難航しそうですよ。すぐおいでいただけないでしょうか。」

内村から天野に電話があったのは、5月に入った頃だった。

次号に続く

この物語はフィクションであり、登場する機関・企業・団体・個人は実在のものではありません。

積算協会ホームページに掲載されています。